令和６年度　東京都立葛飾商業高等学校経営報告（全日制課程）

本校全日制課程は、昭和37年（1962年）に東京都立金町高等学校に全日制課程商業科が新設され、校名を東京都立葛飾商業高等学校と変更して開校、以来60年の伝統に支えられた、東京東部に位置した葛飾区の商業高校である。平成４年度より情報処理科を設置し、高度情報化社会に貢献できる人材の育成に努め、平成30年度から、商業科・情報処理科をビジネス科に改編、ビジネスに関する実学を中心とした様々な教育活動を通し、思考力、判断力、表現力を磨き、グローバル社会で求められる能力を身に付ける教育を推進。勉学にスポーツにと文武両道を推進する地域に根ざした教育を実践して卒業生１万８千名余りの有能な人材を輩出し、各方面で活躍している。本校は商業の専門高校としての使命を果たすため、商業に関する専門的知識と技術を習得させ、人間性を磨き、社会を支える一員であることの自覚のもとに、望ましい勤労観・職業観を養い、自己実現に主体的・創造的に取り組む人間を育成していく。

重点項目	〔評価基準　A：満足　B：概ね満足　C：もう一歩〕　※（　　）内の数値は令和４年実績

１　学習指導

今年度の取組目標

①主体的・対話的で深い学びを意識した良質な授業を工夫し、生徒が自ら学ぶ姿勢を育て、基礎学力の定着と伸長を図る。
②生徒の創造力を育み、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を常に行い思考力・判断力・表現力等を育成する。
③教科マネジメントを確立し、３年間を見通した教科指導の在り方、組織的な補講を含めた指導体制の強化を図る。
④ビジネス教育を推進するとともに検定資格の取得率の向上を図る。
⑤家庭における学習時間の拡充を図る。
⑥持続可能な社会づくりに向けた教育（ＳＤＧｓ）を推進する。
⑦ＩＣＴを活用するとともに、Society５.０の社会に対応するための教育に取り組む。
⑧定期考査採点・分析システム（リアテンダント）を全教員が利用し、各生徒のスタディログを残し、授業改善につなげていく。
⑨「オンライン授業デー」の取り組みを通し、生徒の学びが止まらぬよう、全教員のスキルをあげていく。

具体的な方策	取組と成果	評価
・新学習指導要領に対応した教科指導上の課題について横断的に検討し、教育活動の改善や新規事業の提案等を行う。 ・すべての教科で主体的・対話的な深い学びの実現に向け努力するとともに、討論や発表を通じて言語活動の充実を図る。 ・読書の時間の実施や推薦図書の選定等、図書館の活性化を図り、読書活動を推進する。また、教材や調査研究の素材として、「新聞」を積極的に活用する。 ・Microsoft Teamsを活用したオンライン授業の実施に向けた授業計画・指導計画・教材開発について研究を進める。また、「オンライン授業デー」の取り組みを通し、生徒の学びが止まらぬよう、全教員のスキルをあげていく。 ・定期考査採点・分析システム（リアテンダント）を全教員が活用できるスキルを身に付ける。	・一人１台端末やスタディサプリ等の活用について、各教員の指導力任せになっており、活用している授業とまったく活用していない授業があった。活用に向けた方策も今年度とることができなかった。 ・授業公開週間等を活用して、相互授業参観を行っている様子が見られた。11月の授業公開の日程が「葛飾教育の日」とぶつかってしまい、中学生の参加者が少ない状況になってしまった。 ・２・３年生全員で１２月「学習成果発表会」を行った。発表形式をポスターセッション形式にし、全学年の生徒が主体的に発表に取り組む場を設定できた。 ・３月に研究紀要を作成した。昨年よりも執筆者が増え２倍となった。 ・ＩＣＴ関連の教材・教具の整備、管理を行った。統合型校務支援システムの活用により、適切な管理・運営を進めることができた。週案の作成も教科主任会議を通して周知しており、計画的に進行・管理ができるように進めた。 ・２年生では、自らの感性と表現力を高めるため、文学作品についてのレポート作成に取り組んだ。 ・３年生では、本校ビジネス科で学んだことをもとに夏休みの宿題として、自分の進路をテーマに作文を書いた。ビジネス科での学びについて振り返り、表現力を高めることができた。優秀作品１０作品を東京	A

・１年次においては簿記、情報処理、珠算・電卓、ビジネス文書、商業経済検定の３級取得１００％を目指し、２年次からは生徒の興味・関心、進路希望等に応じて、さらに各種１級の高度な資格取得を実現する。 ・地域の商店街や企業など産業界との連携や外部人材の活用により、研究発表、商品開発、空き店舗を利用した店舗運営、起業精神の育成などビジネス教育を推進する。	都産業振興会主催作文コンクールに応募した。 ・図書館と連携し、専門学科・希望進路に関わる図書リストに基づく読書課題、国文学に関わる読書課題を１、２、３年に課した。 ・社会では、全科目でICT機器の活用や時事・葛飾・商業等と関連させた展開等を行えた。また、教科科会等で各科目の実施内容を共有し、科目間で内容を相互補完するなど、横断的学びを意識して、授業実践に取り組むことができた。授業評価アンケートの「興味や関心をもたせてくれたり、意欲をわかせてくれたりしていますか」の項目では各科目とも８割以上の肯定的評価であった。	
・主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善の推進を継続するとともにルーブリックを用いた評価を活用して指導と評価の一体化を図る。 ・学習成績に関して、観点別評価についてBのラインは５０％、Aのラインは８０％とし、ペーパーテストやその他の成果物、授業態度（アクティブ・ラーニングへの取り組み）、出欠等を考慮する。検定試験を実施する科目については、合否に関わらずその結果も要素として考慮する。 ・検定資格の取得につながる教科・科目については、生徒の能力に応じた適正なレベルを受験させ、組織的計画的な指導によって合格率の向上を図る。 ・英語については、ＪＥＴ・ＡＬＴとのＴＴでは、オールイングリッシュを意識した授業を目指して取り組む。習熟度別授業・少人数授業、多読、英紙新聞の活用を図るとともに、英語検定を活用して英語力の向上を図る。 ・教科・経験の枠を超えた「授業相互参観」年３回と研究授業を実施し、授業力の向上と良質な授業の工夫および教材作成に取り組む。 ・教科指導・特別活動において、調査・研究活動で図書館を積極的に活用することや「読書の時間」を設定することにより、不読者率を減少させる。また、教材や調査研究の素材として「新聞」を積極的に活用する。	・数学Ⅰでは、１学期中間考査では中学校の既習事項を振り返りながら式の計算について出題することで、学習内容の定着を評価した。中学校までの展開・因数分解についての定着が不足している生徒も目立つ。 ・少人数での授業では生徒のつまずきを把握しやすく、理解が不十分な問題を繰り返し取り組ませることによって学力を底上げすることができた。 ・理科では、授業でのスライドやＩＣＴ教材の活用により、授業評価アンケートの結果で、授業準備に関しては肯定的反応であった。学習環境の整備に関しては概ね良い反応だったと考える。理系科目が苦手な生徒が上級学年に行くほど抵抗感がある様子なので、今後も教材の工夫を続けていく。 ・保健体育では、水泳の授業を通じて、出来る喜びを味わい、次の目標をたてて意欲的に活動することが出来るようになってきた。 ・生徒の授業評価の結果では、自分の課題や目標をもって取り組んでいる、というところに、9割程度の生徒が回答している。 ・家庭科では、主体的・対話的で深い学びの実践として、２年生「家庭総合」において、単元の最初と最後にデジタル課題に取り組ませ、定期テストに出題したり、ｅラーニングに取り組ませて外部コンテストに応募させたりした。 ・英語では、習熟度別授業で生徒の能力や理解度に合わせたきめ細かい個に応じた指導により、主体的で深い学びの授業ができている。特に、ペアワークやグループワークの発表の場として、授業内において定期的にパフォーマンステスト等を実施することで、スピーキング能力やプレゼンテーション能力を向上させることができている。 ・英検については、長期休業中の講習を実施し、下位級だけでなく上位級の合格へつなげた。二次面接対策の補習を行うことで一定の成果をあげた。 ・商業では、積極的に外部人材を活用し、地域の企業、信用金庫、商工会議所、税理士会などと連携し、経営者等から実学を学ぶことができ、生徒自らが主体的に授業に取り組むことが出来た。 ・FP検定や各種検定の上位級等の高度資格に向けて積極的に挑戦させた。 ・起業家精神の育成として、アントレプレナーシップを身に付けさせた。 ・各種新人戦や東京都予選に参加したことで、授業に対し目標を持って取り組むことが出来た。また、充実感や達成感が養われた。 ・図書委員を中心に、館内レイアウトの見直しや個人学習スペースの充実など、図書館の環境整備に努めた。生徒にとって主体的な学びにつながる親しみやすい空間を作ることができた。 ・「読書の時間」の設定、図書委員会の活動などを通し、読書活動を推進している。７月には「葛商生におすすめの本」の冊子を図書委員が作成し、生徒の読書意欲の向上に資することができた。	A

次年度以降の課題と対応
・企画調整会議、教科主任会議を通して、教育課程、校務運営の適正な進行・調整・管理を行う。校内研修を通して、学習評価についてさらに確認をする必要がある。また、保護者への教育活動の周知を通して、生徒・保護者の期待に応えるものとなる教育課程の実施体制を整える必要がある。 ・教科主任会議や研修会、協議会を通して授業研究に関する雰囲気の醸成を図るとともに、一人１台端末の仕様につなげていく。 ・各授業における計画―指導―評価において、令和４年度入学生より行われている「観点別学習状況の評価」の対応が、まだ教員間で周知できていない状況が見られる。・引き続き、「読む」「話す・聞く」「書く」力の育成に向け、単元ごとに書く機会を設け、さらにパワーポイントを活用したスピーチを実践していく。 ・授業は「準備・工夫されているか」「わかりやすく教え、考えさせてくれるか」「意欲がわくか」については、概ね良好、一方で「自分なりの課題や目標を持って取り組んでいるが」には課題がある。 ・オンラインと通常授業を併用したハイブリッド授業を視野に入れた授業改善が必要。 ・一方的な講義から、生徒が主体的に学ぶ形式の授業構成の検討が必要である。また、そのような授業の中でも苦手意識をもつ生徒を底上げしつつ、上位層を伸ばす仕組みを検討する。特に、発表活動などの言語活動の苦手な生徒への手立ての方法を検討する必要がある。 ・スタディサプリの学習を実施することが授業や成績につながる有用感を持てるような活用をしていきたい。中学校内容を授業までに先に学習する反転学習、復習に活用する知識定着の使用が理想である。 ・一人１台端末の活用方法の検討。今年度は、主に調べ学習のツールとしての活用に限定されてしまった。端末活用をとおして、講義形式の授業スタイルから生徒自ら考えて主体的に学ぶ態度が得られる課題解決型の活動につなげる方法を検討したい。 ・評価に関して、教科ルーブリックを協議し、「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法について検討が必要である。 ・意欲はあるが、能力が伴わず苦しんでいる生徒に対する、達成感の持たせ方や、成功体験の経験のさせる方向づけについて考えていく必要がある。 ・継続的にモチベーションを、保ち活動出来る環境整備の必要性。（使用する場所の環境整備・使用道具の準備・購入など） ・一人１台端末の活用方法については、教科内での打ち合わせ等により、教員側がより習熟することが必要である。 ・習熟度別授業による個に応じた指導が出来ている一方で、下位クラスの中では学習活動をリードしていく生徒が少なく、指導が難しいという側面もある。令和８年度入学生以降の教育課程における科目の置き方について再考する。また、今後の授業のあり方や展開の仕方、評価の仕方についても検討する。 ・進路活動を見据え、商業英検や実用英検の受検者と合格者を増やすために、更に多くの生徒が補講に参加できるよう時期や回数などについて検討していく。英語科の教員だけでなく、外部機関とも連携を図るなどの効果的な指導体制を整えていく。 ・生徒の読書状況は、個人差が非常に大きい。学校全体とて読書意欲を高めるため、今年度最も本を借りた生徒をベストリーダー賞として表彰する。 ・ビブリオバトルの代表者選考について、来年度以降の運営方法を検討する。 ・放課後等の補習を充実させ、１年生は全商検定３級合格８０％以上を目指す。 ２、３年生は興味関心・能力に応じたレベルの級を受験させ、自己実現に向けて取り組ませる。 ・実学としてのビジネス教育を充実させるため、地域連携や外部人材をより活用し、商品開発等の更なる充実を図り、起業家精神の育成・ビジネス教育の推進に取り組む。

２　生活指導・健康づくり

今年度の取組目標

①生命尊重・他人を思いやるこころの育成に取り組み、安心・安全な学校生活を確保し、いじめ・暴力行為・自殺等の未然防止に努める。

②規範意識の醸成を図り、基本的生活習慣を確立させ、ボランティア精神の醸成と社会人として必要な資質・能力を育成する。

③全教職員で交通安全指導・遅刻指導・身だしなみ・挨拶・マナー・情報モラル指導等の徹底を図る。

④ ＳＣや外部機関との連携を強化し、教育相談体制と支援内容および特別支援教育の理解と啓発を図る。

⑤生徒の健康状況の把握に努め、保健指導の充実と健康管理の徹底を図る。

⑥生徒の健康づくり、体力向上、安全管理、環境美化を徹底する。

具体的な方策	取組と成果	評価
・服装・頭髪・授業規律・挨拶・遅刻・マナー指導を通して、社会人として必要な規範意識を育てるとともに、道徳教育の充実を図る。	・頭髪指導・服装指導・授業規律指導・挨拶指導・遅刻指導・マナー指導を通して、社会人として必要な規律・規範意識の育成を図り、道徳教育の充実を図った。・毎日登校指導を行うことで生徒の規律・規範	

・日頃から安全教育プログラムを活用するとともに、セーフティ教室等において交通安全指導、薬物乱用防止教育、生徒の健全育成を推進する。 ・生徒の健康増進や体力向上を図るとともに、積極的に運動やスポーツに親しみ、心身の調和的な育成を推進する。 ・いじめの未然防止に努め、特にＳＮＳの健全な利用について通年で注意喚起する。 ・「生命尊重」に関する教育を推進し、講演会、授業、ホームルーム等において、通年で取り組む。 ・養護教諭、ＳＣ、学校医、外部専門機関等との連携を深め、教育相談、特別支援教育に関する校内組織を活性化し、一人ひとりの生徒に対応した支援の充実を図る。 ・生徒の情報交換会を年３回実施し、全教員が生徒の状況について共通理解を図る。	意識を向上させている。 ・薬物乱用防止教室、セーフティ教室を実施し、事前の知識を得ることで、生徒の安全を担保するとともに、交通マナーの育成を図った。 ・校内巡回や昼休みの立ち番を行い、生徒の安全を確保し、感染対策も徹底している。 ・いじめの未然防止に努め、ＳＮＳの健全な利用について通年で注意喚起をした、毎学期のいじめについてのアンケートを実施し、いじめの未然防止に努めた。 ・生徒会や文化祭実行委員会とともに文化祭を成功させた。 ・部活動ガイドラインを作成した。部長会を定期的に行っている。 ・生活指導部会を週に一度行い、業務の整理・効率化を図っている。 ・生活指導部内規の作成を行った。 ・遅刻延べ人数　約２２００回 ・美化・省資源については、普通教室の清掃とゴミの減量化、さらに、ゴミの持ち帰りを推進し、ゴミゼロ運動を掲げ、学習環境の整備に努めている。 ・１学期の美化キャンペーンでは、美化委員が中心となりゴミの分別について周知する活動を行った。	B
・全教職員の共通理解のもと、基本的な生活習慣、身だしなみ、授業規律、自転車通学マナー、ＳＮＳの使い方等の規範意識のさらなる定着を図る。 ・各学期末の特別支援委員会で情報交換会を実施し、気になる生徒に関する情報を共有することで統一した指導に取り組む。 ・青少年赤十字（ＪＲＣ）を活用し、ボランティア精神の醸成と活動を推進する。 ・様々な機会を通じ、組織的にＳＤＧｓに関わる取り組みを推進し、生徒の意識啓発と社会参加を推進する。 ・地域の商店街や町会、中学校、保育園、児童館等との地域連携活動を推進し、地域貢献、人材育成に取り組む。 ・オリンピック・パラリンピック大会後のレガシーの教育として、異文化交流に取り組む。	・文化祭では美化委員が主体的に巡回した結果、校内は綺麗な状態が保たれた。明るく分別を呼びかける美化委員の活動には、来校者の方々にも好評であったようである。ゴミの分別状態も良好だった。 ・生徒に対してプリント類を持ち帰るよう恒常的に指導している。 ・美化委員を中心に生徒が自主的・積極的に活動できる環境作りに努めている。 ・学校医等と相談した上で、感染症対策を十分に行い、定期健康診断、内科検診、眼科検診、心臓・結核検診、他を実施した。腎臓検診と内科検診は受診率100％を達成した。環境衛生検査は、教室内照度・空気検査、プール構造設備調査及び水質結果の確認を実施した。 ・感染症の流行状況やその対策の情報を把握すると共に、日常的にハンドソープや手指消毒剤の点検補充を行い、感染防止対策を講じた。 ・『保健だより』を月1回発行し、生活習慣の改善や感染症予防等に関する情報を提供した。また、保健ニュースを掲示し、健康に対する意識の向上を図った。 ・1学期にスクールカウンセラーによる1年生の全員面接を実施し、個々の生徒の把握に努めた。特別支援委員会を毎月開催し、1、3学期に「気になる生徒」について、スクールカウンセラーと全教職員で共通理解を持った。また、1月にスクールカウンセラーによる研修会を実施した。精神科医派遣事業を活用し、特別支援研修会の際には、講師としてご協力いただいた。 ・1月に「令和６年度定期健康診断疾病異常調査」を東京都教育委員会に提出した。4月に「令和６年度学校において予防すべき感染症による出席停止状況調査」をまとめ、提出する。4利用状況は内科系715 ・授業、ホームルーム等をとおして、生命尊重を尊ぶ教育を通年で推進した。	B

次年度以降の課題と対応

・生活指導部内規の運用・全職員で組織的に生活指導に取り組み、規範意識や道徳心の育成を更に図る。
・ＳＮＳの適切な利用法を徹底させるとともに、毎学期のいじめアンケートを活用し、いじめの未然防止に努める。
特に１年生は、入学時にＳＮＳの適切な利用法を指導・徹底させる。
・生命尊重を尊ぶ教育をセーフティ教室やホームルーム等で継続実施する。
・スクールカウンセラー、外部専門機関等と連携を深め、生徒の個に応じた支援を組織的に行い、特別支援の更なる充実を図る。

・特別支援委員会を充実させ、特別支援に関する意識の高揚・知識の充実を図るとともに、生徒情報の共有化に努め、個に応じた教育環境を整える。・生徒や社会の状況を鑑み、適切な指導に全職員で取り組む。
・セーフティ教室やホームルーム活動・授業等をとおして、生徒の健全育成を図る。自転車安全利用の意識向上に努め、自転車事故の減少を図る。
・生徒の遅刻数・指導数を減らす。身だしなみを整えさせる。行事の適切な運営・引継ぎ。部活動ガイドラインの徹底。自動販売機や購買の適切な使用。教員の負担軽減、業務の効率化。来年度への適切な引継ぎ。
・感染症対策として、環境衛生の確認と整備を行い、感染症の情報と流行状況を把握する等、適切な対応に努める。
・生徒の健康課題を捉え、健康に対する意識の向上を図るために、保健だよりや掲示物を活用し、最新の健康情報を発信する。
・スクールカウンセラーや精神科医派遣事業を活用し、また、特別支援委員会等を通して、生徒情報の共有、把握を行う。
・健康診断結果等の保健統計を今後の保健指導や保健室経営に活かしていく。

３　進路指導

今年度の取組目標

①３年間を見通した組織的・計画的なキャリア教育のシステムを構築する。
②大学入試改革に対応した商業高校からの大学受験指導の改善を図る。
③多様な進学希望に対応した進学指導マネジメント・システムを構築する。
④生徒の入学時から卒業までの成績推移等の個別データを全教員で共有し、担任、教科担任、部活動顧問など、それぞれの関わりの中できめ細やかな丁寧な指導を行う。

具体的な方策	取組と成果	評価
・生徒の多様な進路希望に対応する組織体制を確立し、１年次から計画的にキャリア教育を推進する。 ・２年次のインターンシップについて、早期に職業観を醸成するため、今後は１年次の２学期に全員が実施するよう体制を組み直す。 ・大学入試に対応した指導体制を確立し、大学短大、公務員希望者への指導を強化する。	・生徒の多様な進路希望に対応する組織体制を確立し、１年生から計画的にキャリア教育を推進していく。 ・2年生のインターンシップを１年生の8月に動かし早くから職業観の醸成を図った。 ・インターンシップ時に全教職員による企業見学・会社訪問を実施した。 ・大学入試に対応した指導体制を確立し、多様な受験方法を活用して、希望大学に進学する生徒を出した。 ・３年生の進路決定は希望者１００%を継続することができた。 ・キャリア・パスポートについては、積極的な活用ができていない。	A
・外部のオンライン個別学習で、基礎学力の向上を図り、就職・進学対策に活用する。 ・全教職員による企業見学・会社訪問を実施し、新規就職先やインターンシップ受入先の開拓に取り組む。 ・学校全体で、３年生の進路実現を図る。 ・中学から引き継いだキャリア・パスポートについて適正に活用する。	・就職希望者　内定５２名　　（男子２４名　女子２８名） ・進学希望者　大学４１名　　（男子２７名　女子１４名） 　　専門学校４０名（男子２０名　女子２０名） ・新入生オリエンテーションで「進路の手引き」を配布、説明 ・進学資金について、多くの生徒が奨学金を活用する傾向にある。早期から進学資金について、検討や準備が必要なため担任と連携し指導している。 ・５月に３年保護者会を実施した。 　就職・大学・専門の各分野における詳細な指導方針を保護者に説明。 ・６月に進路懇談会を実施した。	A

次年度以降の課題と対応

・オンライン個別学習の推進を図ったが、基礎学力の定着、就職・大学短大・専門学校・公務員の受験対策の活用までには至っていない。・教科等横断的な学びについて、情報共有の方法については課題があり、改善する必要がある。
・いくつか共有されていない進路情報があるので、引き続き共有化を図る。
・進路に対する意志が低い生徒が多くみられるためキャリア教育を通して意識の醸成を図りたい。
・生徒の多様な進路希望に対応するための組織体制を確立し、１年生から計画的にキャリア教育の見える化を推進する。
・インターンシップを１学年の８月に実施し、科目選択や早期の進路決定に役立てていく。
・大学入試に関する情報から適切な指導体制を整えるとともに、進学・就職・公務員希望者への個別指導を行い、生徒の進路実現を図る。

４　特別活動

今年度の取組目標

①持続可能な社会づくりに向けた教育（ＳＤＧｓ）を推進する。
②生徒が主体的な学校行事や部活動の一層の活性化を図り、育成する。
③地域貢献活動の充実を図り、生徒の成長を促すとともに地域に根差した学校づくりを推進する。
④平和教育・環境教育を推進する。
⑤運動部・文化部への加入率をあげ、部活動や委員会活動に積極的に参加させ、学校への帰属意識を高める。
⑥教科以外にも読書活動を推進する。
⑦次世代リーダー育成道場や東京英語村等を活用し、グローバル人材の育成を図る。

具体的な方策	取組と成果	評価
・地域貢献活動の一環として、ふれあい月間推進事業、東京都教育の日の取り組みの拡充を図る。 ・青少年赤十字（ＪＲＣ）加盟校として、ボランティア活動への参加を促し、生徒に自己有用感を持たせ、社会貢献意識の向上を図る。 ・「総合的な探究の時間」等を自己の在り方・生き方と関連づけて実施し、キャリア教育、道徳教育、平和教育、環境教育に関する知識を身に付けさせ、社会貢献活動の自覚を深めるとともに、生徒の「生きる力」を育む。	・地域貢献活動・ボランティア活動は感染対策に努めながら、１０回以上行うことができた。 ・「総合的な探究の時間」等を活用し、自己の在り方・生き方と関連づけて、キャリア教育、道徳教育、平和教育、環境教育に関する知識を身に付けさせ、社会貢献活動の自覚を深めるとともに、生徒の「生きる力」を育んだ。 ・ＪＲＣ同好会や生徒会中心に、青少年赤十字（ＪＲＣ）を活用し、ボランティア精神の醸成と活動に取り組んだ。 ・授業を中心にＳＤＧｓに関わる取り組みを実施し、生徒の意識啓発に努めた。 ・地域貢献活動に１０回以上、取り組むことができた。	Ａ
・１年「ビジネス基礎」、２年「ビジネス・アイディア」について、企業、商工会議所、税理士会などの実践的な学習等によりビジネス教育の充実を図る。 ・各種検定・大会・コンテスト等への応募・参加を促し、生徒の潜在能力の発見・開花に結び付け自信と誇りを持たせる。（例）国税庁「税に関する高校生の作文」、都産振「作文コンクール」、ＭＯＳ検定、ＩＴパスポート試験、ＦＰ技能検定など。 ・店舗運営実習や商品開発、都立足立特別支援学校との連携を推進し、ビジネスに関する協働学習と生徒の相互理解に取り組む。 ・英語科と商業科が連携して、ＥＢＰＣ(ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ・ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝ・ｺﾝﾃｽﾄ)入賞を目指す。	・オリンピック・パラリンピックレガシーを推進し、異文化交流に取り組んだ。 ・避難訓練では、地震が起きたことを想定し、生徒主体の避難訓練になるよう、防災係りが先導に立ち実施した。 ・帰宅訓練を実施することで、災害時に臨機応変に生徒が活動できるよう、意識を高めた。 ・防災訓練、避難訓練では、金町消防署と連携し、学年委員、防災係、防災士が中心となり、生徒主体の訓練を実施した。「自助」、「共助」について、生徒自ら実践的に学ぶことができた。 ・12月の避難訓練ではＪアラートを想定して行った。	Ａ

次年度以降の課題と対応

・災害はいつどのような形で起こるか分からないことから、生徒が主体的に活動できる訓練となるよう今後も計画する。
・今後も地域貢献活動を再開させ、豊かな心の育成を図るとともに、本校の広報活動に務める。
・青少年赤十字加盟校として、ボランティアの積極的な参加を促し、社会貢献意識の向上を図る。
・「総合的な探究の時間」等を活用し、キャリア教育、道徳教育、平和教育、環境教育等を実施し、社会貢献活動、生きる力の醸成を図る。

５　募集・広報活動

今年度の取組目標

①本校のビジネス教育について、ＷＥＢ等の情報発信を活性化させ、中学生、保護者、中学校、学習塾等の関係者の理解を深め、本校を第一志望とする応募者の増加を図る。
②学校説明会・学校見学会の内容を工夫するとともに、効果的な中学校訪問、 学習塾対策等を実施する。
③近隣の中学校への出張学校説明会、出前授業を拡大し、応募倍率を１倍以上にする。

④校内で行った取り組みを東部学校支援センター「GOODニュース」、本校のホームページ、「葛飾商業通信」を通じて数多く発信する。

具体的な方策	取組と成果	評価
・ホームページの随時更新に努め、積極的に本校の情報発信を行う。 ・授業公開日、学校説明会、中学校・学習塾訪問等の実施方法を工夫し、中学生・保護者・地域等に対して効果的な広報活動を全教職員で行う。	・ホームページを随時更新し、ホームページの充実を図り、情報発信を積極的に行ったが、中進対１倍を超えることができた。 ・授業公開、学校説明会や中学校・学習塾訪問等をとおして、中学生、保護者、地域等に学校の情報を公開することができた。 ・募集対策のあり方を見直し活動に取り組んだ結果、２年連続の入試応募倍率の低迷に終止符を打ち、大幅に改善した。	A
・マスコミの活用、学習塾および中学校の強化対策地区を設定するなど、効果的で組織的な広報・募集活動に全教職員で取り組む。	・Webページの更新は噴飯行うことができた。 ・学校パンフレットを刷新した結果、学校見学会では概ね好評であった。 ・東部学校支援センター「グッドニュース」に多数、投稿した。 ・学校説明会で生徒による広報活動の場面（生徒による学校紹介、校舎案内）を取り入れ、来校者には非常に好評だった。 ・夏季休業中の学校見学会は例年より多くの参加数だった。 ・学校説明会の参加数は例年よりも多くの参加数だった。	A

次年度以降の課題と対応

・今年度の広報活動の検証を行い、次年度の日程、方策を再検討する。特に学校説明会へつなげる方策を検討する必要がある。また、広報活動の取り組み方を全校体制で出来るように、広報委員会の運営方法も検討する。
・今後もホームページを随時更新するとともに、充実を図り、情報発信を積極的に行う。
・授業公開、学校説明会、中学校・学習塾訪問等をさらに充実させ、中学生、保護者、地域等に情報を公開し、応募に繋げる。

６　学校経営・組織体制

今年度の取組目標

①カリキュラム・マネジメントを確立し、学習指導要領に対応した教育課程の検討を継続する。
②働き方改革、ライフ・ワーク・バランスの推進に積極的に取り組む。
③高い倫理観をもち法規法令の遵守ができる教職員集団を目指す。
④経営企画室からは行政系職員から見た教育活動等への提言を行う。
⑤自律経営推進予算・学校徴収金会計について適正な計画を立案し、計画的・効率的な予算執行と会計処理を行う。
⑥施設設備の定期的な安全点検・安全管理及び迅速な修繕の徹底を図る。

具体的な方策	取組と成果	評価
・ビジネス科７年間の検証を行い、カリキュラム・マネジメント、グランドデザインを点検、改善を加えながら、教育課程の編成・構築を随時行う。 ・計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。 ・服務事故ゼロを達成し、生徒・保護者の信頼を確立する。特に体罰や不適切な指導を絶対に生じさせない。 ・経営企画室と一体となった体制づくりを進め、来校者等への丁寧な接遇、危機対応力の向上を図る。 ・学校加入のＰＴＡ一斉メールシステムを最大限に活用し、保護者に必ず連絡が届くようにする。	・ 業務分担の適正化、会議の時間短縮等業務の効率化を図り、時間外勤務の軽減に取り組み、教職員の在校時間を縮減した。しかし、一部の教員は在校時間を縮減することができなかった。 ・服務事故・個人情報紛失事故・体罰や不適切な指導の根絶に向けた校内研修を各学期に１回以上実施し、服務事故防止に努めた。 ・ 自律経営推進予算は適正執行し、自律経営推進予算の一般需用費センター執行率は７２％であった。 ・教育課程、校務運営に関しては、計画的に実施できた。月間行事予定を活用した調整により、学年、分掌の業務がスムーズに進行できている様子が見られた。・計画的・効率的な職務遂行を徹底し、ライフ・ワーク・バランスの実現を図った。 ・経営企画室と連携を図り、来校者等への丁寧な接遇、危機対応力の向上を図った。 ・全国商業高等学校協会、東京都商業教育研究会の運営・活動に積極的に参画した。	A

・業務分担の適正化、会議の時間短縮など業務の効率化を図り、時間外勤務の軽減に取り組み、教職員の在校時間を縮減する。 ・服務事故・個人情報紛失事故・体罰や不適切な指導の根絶に向けた校内研修を学期に１回以上実施し、服務事故をゼロにする。 ・自律経営推進予算を備品については、１００％執行し、センター執行率を７０％以上とする。 ・節電等の省エネルギー、資源リサイクル化を推進する。 ・学校加入のＰＴＡ一斉メールシステムへの登録を生徒、保護者とも100％とする。	・全教職員で、学年、分掌、個人で職務を分担し、学校全体で協力して取り組むことができた。 ・今年度、個人情報紛失・体罰や不適切な指導はなかった。今後も引き続き、服務事故ゼロに向けて取り組む。	B

次年度以降の課題と対応

・研究授業後に協議会を行い、授業研修の充実を図った。研究授業、協議会の参加者が非常に少なく、本校が初任者の教員も増えていることから、人材育成、授業研究の場面設定が急務である。・計画的・効率的な職務遂行を徹底し、ライフ・ワーク・バランスの促進を図る。
・服務事故防止研修を毎学期に１回以上実施し、服務事故および体罰等の不適切な指導をゼロとする。
・経営企画室と連携を図り、来校者等への丁寧な接遇、危機対応力の向上を図る。
・全国商業高等学校協会、東京都商業教育研究会の運営・活動に積極的に参画し、商業教育の充実を図るとともに、本校の教育活動に還元する。